Course number	U-LAS30 10002 SJ11		
Course title (and course title in English)	情報基礎演習［文学部］ Practice of Basic Informatics (Faculty of Letters)	Instructor's name, job title, and department of affiliation	Part-time Lecturer,OOURA MAKOTO Part-time Lecturer,SATOU NATSUKI

Group	Informatics	Field(Classification)	(Foundations)

Language of instruction	Japanese	Old group	Group B	Number of credits	2

Number of weekly time blocks	1	Class style	Seminar (Face-to-face course)	Year/semesters	2024・First semester

Days and periods	Mon.1/Wed.2	Target year	All students	Eligible students	For liberal arts students

[Overview and purpose of the course]

大学での学びや社会的活動、また卒業後の大学院や社会における知的活動にとって必須である、情報検索、情報の表現・視覚化などの情報利活用の能力（情報リテラシー）と、情報機器の操作能力とその仕組みについての知識（コンピュータリテラシー）を修得する。また、現代社会において、情報の収集や発信を行う際に守るべき社会的ルール、マナー、倫理に関する最低限の知識を修得する。具体的には、実習を通じて、大学における情報ツールの使い方、各種アプリケーションの操作法を学びながら、情報の検索、得られた情報の表現法を身に着け、ネットワークにおける社会的マナーや、ネットワークやコンピュータの仕組みを理解していく。

高校の「情報」レベルのスキルを持ち、コンピュータと主要なアプリケーションの基本的操作を一定程度身につけた学生を対象とするが、まったくのパソコン初心者やパソコンが苦手な学生をも対象とする。

[Course objectives]

● 学内の情報サービスとネットワークを活用できるようになる。
● 大学における知的生産（梅棹忠夫による造語）とはなにかを理解し、そのためにICTをどのように利用すればよいかが分かる。
● パソコンとそのOS、それに接続する外部機器の仕組みを通常利用することができる程度に理解する。
● コンピュータを利用して、各種書類作成やプレゼンテーション資料などを作成できる。単なる操作手順の暗記として行うのではなく、なぜそのような動作をすることになるのかを理解した上で行える。
● 学修に必要な情報を的確に検索できる。大学図書館が提供している情報源を利用できる。
● 情報社会の一員として相応しいマナーや倫理を守った形で、ネットワークサービスを利用できる。

[Course schedule and contents)]

授業回数はフィードバックを含め全15回とする。

主に以下の内容を予定しているが、学習の理解度によっては取り扱う項目に変更が生じる場合もある。また、おおよそ1回のテーマで1週の授業を予定しているが、内容によっては２、３週にわたる場合もある。

（1）イントロダクション、アンケート
（2）学内情報サービスとネットワークの利用
（3）大学における知的生産（梅棹忠夫による造語）とICT活用
（4）パーソナルコンピュータとOSについて、その仕組みと基本操作

Continue to 情報基礎演習［文学部］(2)↓↓↓

情報基礎演習［文学部］(2)

（5）情報探索と図書館の利用（協力：文学研究科図書館職員）
（6）表計算ソフトウェアによる情報の加工（２－３回）
（7）レポート作成とワードプロセッサの利用（２－３回）
（8）ネットワークを利用したコラボレーション
（9）プレゼンテーションの技法（２回）

コンピュータの基本的な使い方は一定程度理解していることを前提とするが、授業での説明は極力、仕組みや構成から丁寧に行っていく。
【フィードバックについて】 フィードバック時間に、研究室内に待機し、自習に基づいて質問に来た学生に対して解説する。メール等での質問も受け付ける。

[Course requirements]

None

[Evaluation methods and policy]

成績評価は、「平常点」（約20%）と「課題点」（約80%）との総合評価によって行う。
なお、「平常点」については、メール作成のエチケットが遵守されていること、そして、演習の中で要求するコメントや意見などを評価対象とするので、単に演習に出席してメールを送るだけでは平常点とはならないので注意すること。
また、「課題点」については、演習の中で提出方法や評価基準も含めて説明するので、できるかぎり出席し、積極的に情報を収集すること。また、課題提出の締切については厳守である。いかに課題内容を素晴らしく仕上げたとしても、提出期限が守られなければそもそも当該の課題を一切受領しないので、この点も注意すること。

[Textbooks]

市販の特定の教科書は使用せず、演習内容についてはウェブサイトにて公開する。

[References, etc.]

（References, etc.）
参考となる書籍やウェブサイトについては、演習中あるいは演習用のウェブサイトにて紹介する。

（Related URL）

http://www.info.bun.kyoto-u.ac.jp/(本演習専用のウェブサイト)

[Study outside of class (preparation and review)]

● 演習前の予習については、必要となる場合にはあらかじめ指示する。
● 演習後の復習が最も重要となる。実質的には、毎回のテーマに沿う形で課題を出すが、1回の課題作成のために平均して２時間程度は作業が必要になる。

[Other information (office hours, etc.)]

● コンピュータを利用した実習を行うため、一コマの授業の受講者数に限りがある。したがって、文学部の学生を優先して人数制限を実施する。
● 情報環境機構が提供する情報セキュリティe-Learningを必ず受講し、修了テストを受けた上で、同テストのフィードバックを確認しておくこと。授業内では受講のための時間は設けないので授業時間外に受講しておくこと。同e-Learningは学生も含めた本学の全構成員に対して毎年受講が求められているものである。2回生以上で過去の年度に受講した場合でも今年度まだ受講していないのであれば必ず受講すること。